

平成24年度第3回若葉区地域福祉計画推進協議会会議録

日 時：平成25年2月2日（土）
午前9時30分から午前12時
場 所：若葉保健福祉センター3階 大会議室
委員定数：29名、出席委員：25名
事務局：12名、傍聴人：23名

【1】次第

1 開会

2 大嶋委員長あいさつ

3 全体会

（1）新任委員紹介

（2）報告事項

- ・孤独死防止のためのライフライン事業者等との連携について
- ・若葉区地域福祉活動支援事業対象団体 事業報告
あそびうたと絵本の会「ばありんず」

（3）事例紹介

- ・『ご近所のたすけあい』ネットワークの取組みについて
千葉県社会福祉協議会 こてはし台地区部会（花見川区）
- ・質疑応答

4 その他

（1）「若葉区推進協だより」の愛称について

5 閉会

【2】発言要旨

《報告事項1「孤独死防止のためのライフライン事業者等との連携について」》

市保健福祉局地域福祉課長が事業実施の目的と概要、発見から通報、訪問・確認、支援までの流れ、全市的に広げるための今後の展望等について説明した。

- | | |
|---------|--|
| (武副委員長) | 2点ある。1点目は、安否確認後の対応である。職員が現地を訪問すると記載されているが、職員だけでは大変なのではないか。地域の自治会、民生委員、地区部会の担当者を使うことも検討してほしい。2点目は、協力事業者への徹底をどうするかの問題である。新聞配達員は変わる頻度が高い。また、件数として少ないため、忘れられないよう喚起する方法を検討しなければならない。 |
| (大塚課長) | 1点目の安否確認後の対応についてだが、現段階では③番の区役所への通報までしか具体的に決まっていない。③番以降は地域の実情に応じて対応していただくことになる。美浜区は地域住民にお願いしている。単位自治会ごとに町内会長と民生委員に連絡が流れることになっており、住民がいけない場合は区職員が行く、という形を検討中である。
2点目の事業者の徹底についてだが、一般的には事業者と提携を結ぶ。この際に言われるのは、日常業務に支障がない程度にということ、つまり、気付いたら報告してもらおう、という形になる。また、事業者は義務ではないため、サインを見落として孤独死が発生しても事業者の責任ではないことを明確にしておくべきではない。 |
| (大嶋委員長) | 行政側も細かいことを確定したわけではない。事業者が異常を発見して通報した後の動きは、以後、若葉区版の孤独死防止の見守りの原案を作成して協議したい。
事業者に協力をいただき見守りしてもらおうにしても、基本は自分たちの地域、隣近所による向こう三軒両隣の関係の中で見守りをするのが基本となるのではないかとと思うので、この方法を若葉区として考えていきたい。すでに、「そんなこと言われなくても見守っている」という地域もあると思う。 |
| (江口委員) | 異常サインを発見した際は、既に遅いというケースが多いため、地域でカバーしていくことも考えるべきではないか。 |

《報告事項2「あそびうたと絵本の会 ばありんずについて」》

若葉区地域福祉活動支援事業対象団体10団体のうちの一つである、「あそびうたと絵本の会 ばありんず」代表の水谷氏より、スライドを使用しながらの活動紹介、木や布を使ってのレクリエーション遊びを披露いただいた。

- | | |
|---------|----------------------------------|
| (大嶋委員長) | 活動の主たる目的は何か。 |
| (水谷氏) | 母親たちが仲良くなるための出会いの場、遊びを混ぜることで皆を楽し |

ませることである。難しい遊びではないので、一つでも二つでも持ち帰っていただき、家庭でも簡単にできるような遊びを提供するよう心掛けている。

- (江口委員) 子育てサロンの他に活動している実績を伺いたい。
- (水谷氏) 年2回ぬくぬくの中で障害を持った子ども達への活動支援を行っている。
- (津田委員) 配布資料に記載されている成果とは、補助金を受けての成果なのか。それとも、活動の成果なのか。
- (水谷氏) 補助金を受けて新しいおもちゃや材料を購入でき、また出向けるところも増えてきた、という結果である。

《事例紹介「『ご近所のたすけあい』ネットワークの取組みについて」》

こてはし台地区部会部会長の齋藤氏、常任理事の神谷氏、井田氏より、立ち上げの経緯、生活支援の状況、自治会とのつながりや自治会と地区部会の役割分担等について説明いただいた。

- (大西委員) 乳幼児の世話があるが、これについては大変な議論を交わしたのではと思う。経緯を聞きたい。
- (井田氏) 乳幼児の世話に関しては、子育て世帯が少なく、増えてほしいという思いも込めて入れた。利用申し込みはあったが、現況で対応件数は0件である。ご近所のたすけあいネットワークは高齢者向けという考えがあるのではないかと思う。
- (津田委員) 横戸台ボランティアの会の会員数について、年齢構成はどうなっているのか。
- (神谷氏) 横戸台、ご近所たすけあいのボランティアは、いずれも65～75歳が主力となっている。仕事をやっている方はなかなか参加できていないのが現実である。
- (藤森委員) ボランティアの保険料はどこが負担しているのか。
- (齋藤氏) 地区部会の予算から負担している。
- (藤森委員) 全員の分を負担しているのか。
- (齋藤氏) 一括で支払っている。前年度活動した人数に17円を掛けた保険額を支払っている。
- (武副委員長) 自治会、ボランティアの会、地区部会の役割分担が非常によい。自治会は金の出所、ボランティアの会は専門別委員会、地区部会は長期的に取り組むための組織。そして、地区部会では民生・児童委員と福祉活動推進員を核にして全体を動かしている。これは、社協のこれからの進め方において注目すべきこと。また、約束事などを几帳面にやられている。長続きさせるためには、手をいかに抜くことも含めて進めていくことが必要であると感じた。

- (齋藤氏) | 当初予定していたより件数が少ない。その代わり協力員が多くいる。細かく決めていることは、件数が少ない今の段階では問題ないが、多くなってきたら考えていかなくてはいけないと考えている。
- (大嶋委員長) | 時間の関係で他に質問等あれば、社協区事務所を通して対応していただきたい。

《 4 その他 「若葉区推進協だより」の愛称について 》

事務局より「若葉区推進協だより」の愛称について、地域住民の目に留まりやすく、親しみやすい愛称があれば募集したいとのことで情報提供を依頼した。

- (大嶋委員長) | 何かよい案があれば、後日、事務局まで連絡していただきたい。